

パネルディスカッション4(産業衛生技術研修会)

PD4-3 労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)を活用したグローバル管理
～ISO45001とグループ基準の2つの柱を軸に～

小林 祐一
HOYA(株)

HOYAグループでは、Global Multi Site(GMS)を導入しており、世界50以上の事業拠点で、ISO9001、ISO14001、OHSAS18001の3つの規格を統合し、GMS認証を取得している。2019年度より、ISO9001、ISO14001、ISO45001の3つの規格でのGMS認証を取得する。そのために、2018年度より、OHSAS18001をISO45001に移行する準備を進めてきた。両者の要求事項のGapアセスメントを行い、GMSグローバルマニュアルなど、関係する書類の修正、変更を完了した。ISO45001に移行することで、GMS認証の運用管理上に大きな変更はない。

なぜ当社ではOSHMSが必要であったのか。グローバル管理体制を前提にすると、日本の本社から欧州、北米・南米、アジア、アフリカなど、言語、宗教・文化、労働安全衛生の考え方、働き方、経済状況、医療水準などが大きく異なる地域にある事業拠点に対して、グローバルに同じ基準や同じ手法を導入しようとしてもなかなか上手く進まない。特に、働き方、仕事の進め方が違う集団で、自律的かつ継続的にPDCAを回していくためには、何らかのプラットフォームが必要である。そこで、OSHMSというツール(ISO45001)を採用した。

次に、OSHMSを用いたグローバル管理の仕組みを説明する。OSHMSはPDCAを回すためのツールである。その特徴を活かし、OSHMSの要求事項として重要である「内部監査」、「内部・外部監査結果のレビュー」、「法令変更などの変更の管理」、「経営層によるマネジメントレビュー」、「マネジメントプログラム(年間計画)の策定」という一連のプロセス(大きなPDCA)を確実に実行することに活用している。一方で、OSHMSの要求事項は、労働安全衛生活動内容まで規定するものではないので、その活動のパフォーマンス向上のためには、個別コンテンツの活動レベルを規定するグループ基準が必要である。当社の場合、機械設備安全基準、化学物質管理基準、労働安全衛生リスク管理ガイドライン、新型インフ

ルエンザ行動計画ガイドラインなど、約20の基準類(一部日本語のみ)をグローバルに発行している。グループ基準類は、コンテンツ毎に小さなPDCAが回るような手順や様式などを含んでいる。

このように、当社では、1つはOSHMSにより大きなPDCAを回す、もう1つはグループ基準類によりコンテンツ毎のパフォーマンスを向上させるという2つの柱を調和させて、労働安全衛生活動を行っている。さらに、年度毎に、年間計画及び重点項目に関して、OSHMSの観点から「マネジメントシステム指示書」をGMSトップマネジメントから発行し、パフォーマンスの観点から「労働安全衛生重点項目」をCEOから発行し、2つのラインのトップからの指示により、現場の活動の精度を上げ、効率的かつ自律的、持続的にグローバルな運用管理を進めている。

演者略歴

産業医科大学医学部卒業、HOYA(株)グローバル本社総括産業医、環境・安全衛生・健康担当、ISO執行責任者、エネルギー管理統括者、経済産業省労働保健統括医兼務、早稲田大学理工学術院非常勤講師、産業医科大学非常勤講師、慶應義塾大学医学部非常勤講師
[資格] 社会医学系専門医・指導医、産業衛生専門医・指導医、労働衛生コンサルタント
[受賞歴] 日本産業衛生学会奨励賞(2011)、土屋健三郎記念産業

医学推進賞(2010)